

## タギシュレーク隕石の起源とD型小惑星の関連の詳細の再考

### Revisiting the details of the link between the Tagish Lake meteorite and the D asteroids

# 廣井 孝弘[1]

# Takahiro Hiroi[1]

[1] ブラウン大地学

[1] Dept. Geological Sci., Brown Univ.

昨年、私の研究グループは、可視・近赤外反射スペクトルに基づいて、特殊な炭素質コンドライトであるタギシュレーク隕石がD型小惑星から来たらしいことを報告した。タギシュレーク隕石は我々の太陽系の最も古い物質の一つであるという非常に特殊な隕石なので、多くの研究者や一般大衆がその性質と起源に興味を持つに至った。それゆえ、タギシュレーク隕石とD型小惑星の関連がどれだけ確実で、他にどのような可能性があるかということを知りたい人々が増えるために、その詳細を報告する責任があると感じる。今回、小惑星との比較をより良くするために、以前よりもより高い品質とより多くの位相角での反射スペクトルの測定をタギシュレークに関して新たに実施し、それを提示する。

タギシュレークは非常に暗い（約2%）隕石なので、観測の角度による明るさと色の変化は、他のより明るい物質に比べて大きく、反射スペクトル測定に用いる標準試料の非ランバート性（非当方性）をより正確に取り扱う必要がある。小惑星の観測は一般に実験室での測定よりも小さな位相角でなされるので、位相角が小さくなったときの明るさとスペクトルの形を実験室の測定から推定するために、そのような解析は不可欠である。ここでは、タギシュレーク隕石の試料を出来る限りD型小惑星の観測での位相角に近い形で測定し、その明るさとスペクトルの形をより確かに比べる試みをした。